

1 調査名称：都市計画道路見直し検討業務委託

2 調査主体：名取市

3 調査圏域：名取市

4 調査期間：平成 29 年度

5 調査概要：

本調査は、都市計画道路決定時から現在までの社会情勢の変化への対応及び本市のまちづくりの新たな方針に即した都市計画道路網の構築を目的とした、都市計画道路の見直し検討業務である。本市の都市計画道路網の現状を調査し、必要性を検証し、見直し検討を行うことを内容とするが、これについては「都市計画道路見直しガイドライン」（宮城県土木部都市計画課 平成 30 年 3 月改定）に基づき実施する。

平成 29 年度は、既往調査等をもとに、道路体系の現況、道路交通量の動向と予測結果、都市計画道路の整備・計画状況等を整理するとともに、上位計画や関連計画における将来交通網の方針や道路整備に係る整備計画等を整理し、本市における都市交通の特性及び課題の検討を行った。

I 調査概要

1 調査名 都市計画道路見直し検討業務委託

2 報告書目次

序章 業務概要

第1章 交通の現況

1. 道路の機能と区分
2. 道路交通体系の現況
3. 交通量の動向及び交通需要の特性
4. 都市計画道路の整備・計画状況
5. 公共交通の状況
6. 交通の現況からみた課題

第2章 既往調査における将来交通量

1. 発生集中交通量の推移
2. 将来交通量推計結果(第4回仙台都市圏パーソントリップ調査)
3. 将来交通量からみた課題

第3章 見直し検討対象路線の概況

1. 見直し検討対象路線の設定
2. 検討項目の設定
3. 見直し検討路線の概況からみた課題

第4章 道路交通を取り巻く環境

第5章 上位・関連計画

1. 道路網の計画・整備に係わる上位関連計画
2. 上位・関連計画からみた課題

第6章 交通特性・課題の整理

資料編

- 1 名取市の概況
- 2 都市計画制度の運用に当たっての基本的考え方
(都市計画運用指針抜粋)
- 3 新たな交通システムの動き

3 調査体制
所管課による調査である

4 委員会名簿等
なし

II 調査成果

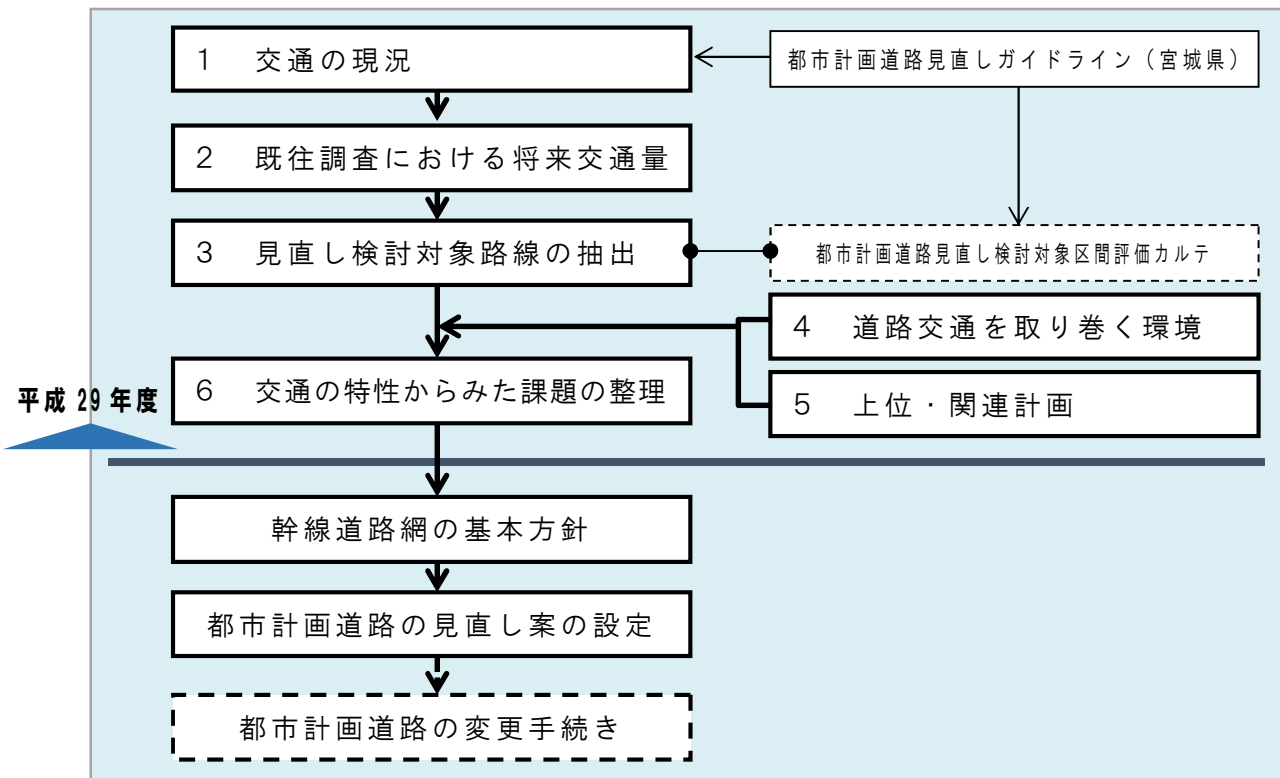
1 調査目的

都市計画については、決定から相当期間が経過しているものがあり、なかには当初の条件と現状とで大きな乖離が生じている可能性がある。特に、国民への影響が大きいと考えられる「都市計画道路」については、事業未着手の路線に係る長期にわたる建築制限が地権者の土地利用等に与える影響や、地域のまちづくりの方針との整合について、あらためて調査・確認する必要がある。

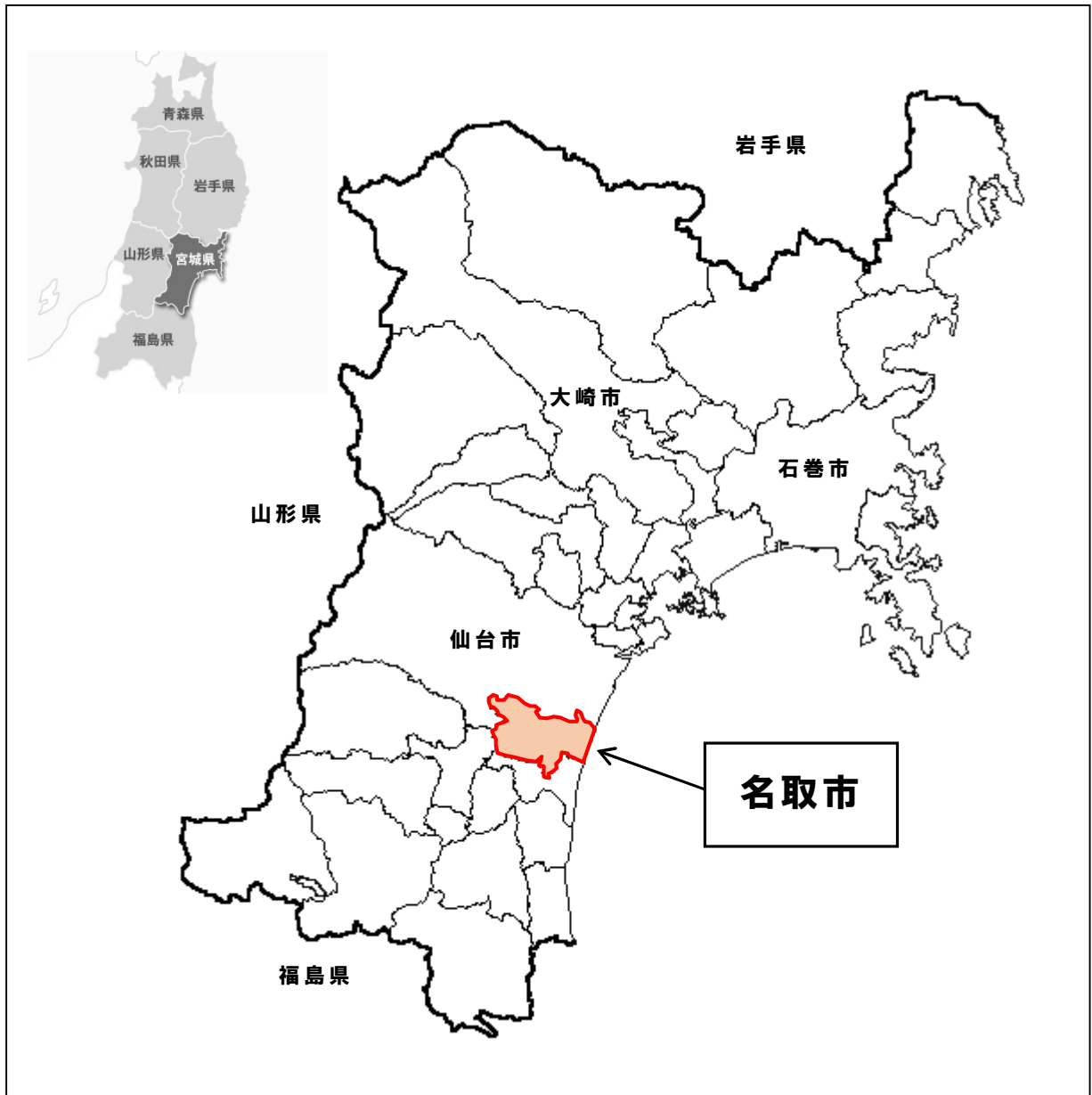
このような状況のもと、国土交通省以下各自治体において都市計画道路の見直しが進められているところである。

本市においても、長期未着手路線を有することや、震災を受けたまちづくりの方針が変化していることから、都市計画道路の妥当性の検討が必要であり、ひいては本市の健全な発展と秩序ある整備に資するため、都市計画道路の見直し検討を行うものである。

2 調査フロー



3 調査圏域図



4 調査成果

都市計画道路の見直し案を策定するため、本市の交通特性と課題を以下のとおり抽出、整理した。

課題抽出の視点	交通の特性からみた課題
(第1章) 交通の現況	◇国道4号及び南北方向の幹線道路に集中する交通需要への対応 ◇未整備の都市計画道路の計画的な整備または見直しの検討
(第2章) 将来交通量	◇将来交通需要予測への対応と復興事業の推進 ◇現在の土地利用計画に基づく交通量配分の見直しと幹線道路網の検討
(第3章) 見直し検討路線の概況	◇長期未着手路線の適正な見直しと計画的な整備の推進 ◇効率的な事業調整の推進
(第4章) 道路交通を取り巻く環境	◇国のまちづくりの方向を踏まえた交通体系の検討
(第5章) 上位・関連計画	◇総合的な交通体系の構築 ◇市中心部と郊外部のネットワークの強化

←同様の特性や課題の内容を集約

【名取市の交通特性・課題】

- ① 国道4号及び南北方向の幹線道路に集中する交通需要への対応
- ② 未整備の都市計画道路の計画的な整備または見直しの検討
- ③ 将来交通需要予測への対応
- ④ 市中心部と郊外部のネットワークの強化

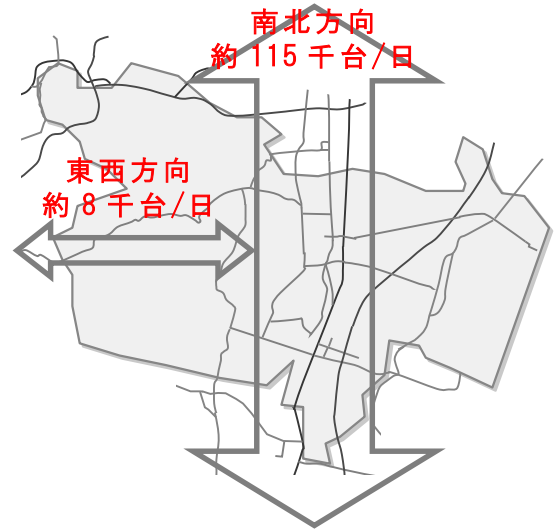
① 国道4号及び南北方向の幹線道路に集中する交通需要への対応

本市及び本市周辺道路の交通需要の特性を把握するため、全国道路・街路交通情勢調査（平成17年, 22年, 27年 国土交通省）を用いて箇所別交通量及び混雑度を整理した。

その結果、南北方向路線の断面交通量は約115千台/日、市中心部から隣接市町に向かう東西方向の断面交通量は約8千台/日となっており、南北方向の交通需要に特化している。（自動車専用道路を除く一般道路）

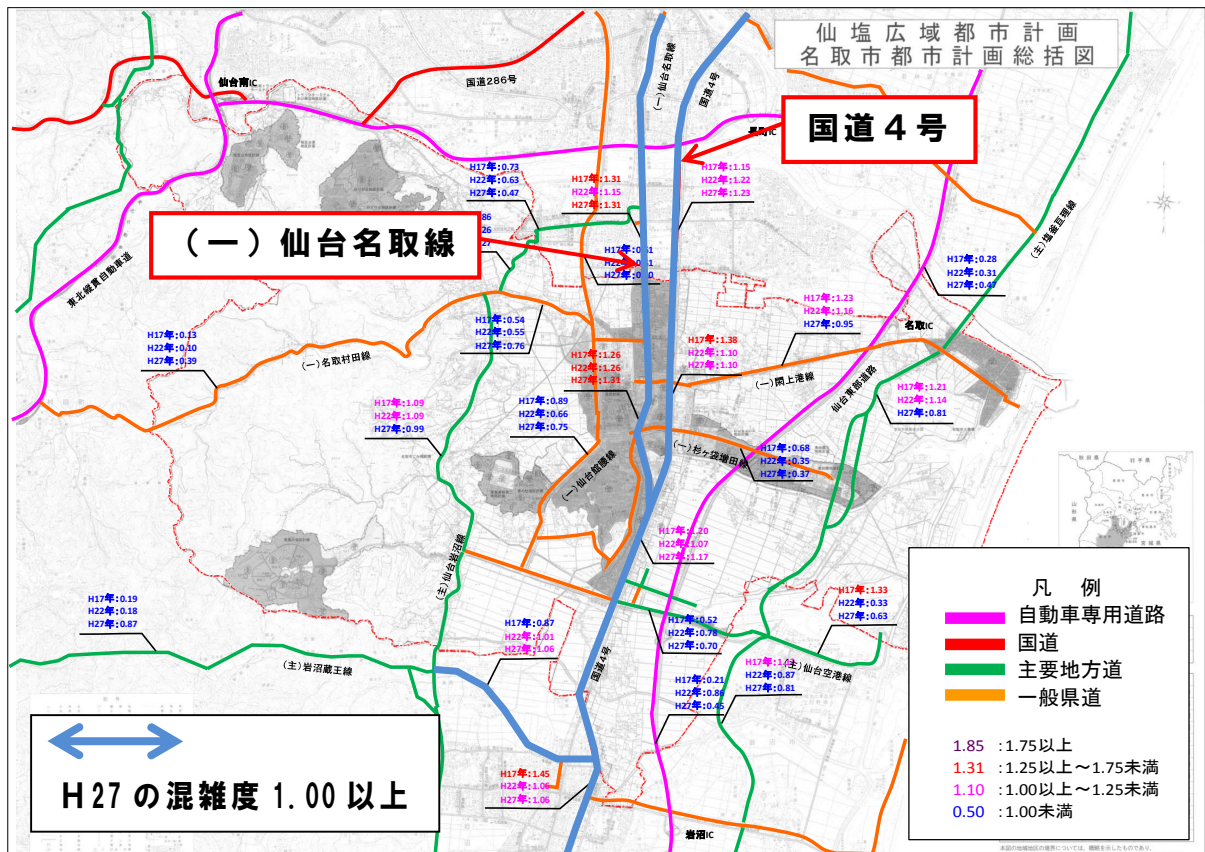
混雑度は、市街地中心部を南北方向に縦断する国道4号及び（一）仙台名取線（旧国道4号）の全区間が1.00を上回っている状況にある。

□交通需要方向別交通量



※自動車専用道路を除く一般道路

□幹線道路の混雑度



資料：全国道路・街路交通情勢調査（平成17年, 22年, 27年 国土交通省）

よって、南北方向の交通需要の軸上に位置し、本市の市街地の骨格を形成している国道4号及び（一）仙台名取線については、市内々、内外交通等の各種交通の集中と錯綜が大きいと考えられるため、これらの路線に集中する交通需要への対応（国道4号の強化または交通の分散）を課題として位置付ける。

② 未整備の都市計画道路の計画的な整備または見直しの検討

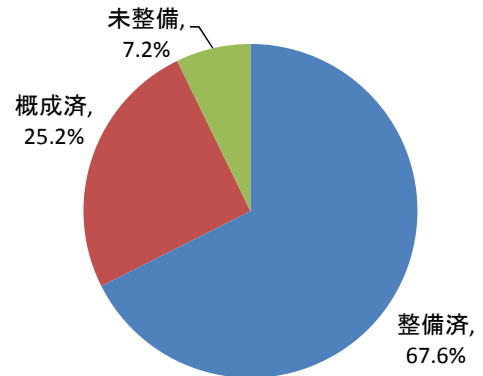
都市計画道路の見直しの検討が必要な区間を把握するため、都市計画道路の整備状況を整理した。

本市の都市計画道路は、平成30年3月末現在31路線、78,580mが都市計画決定されており、整備率（整備済み延長/計画延長）は67.6%となっている。

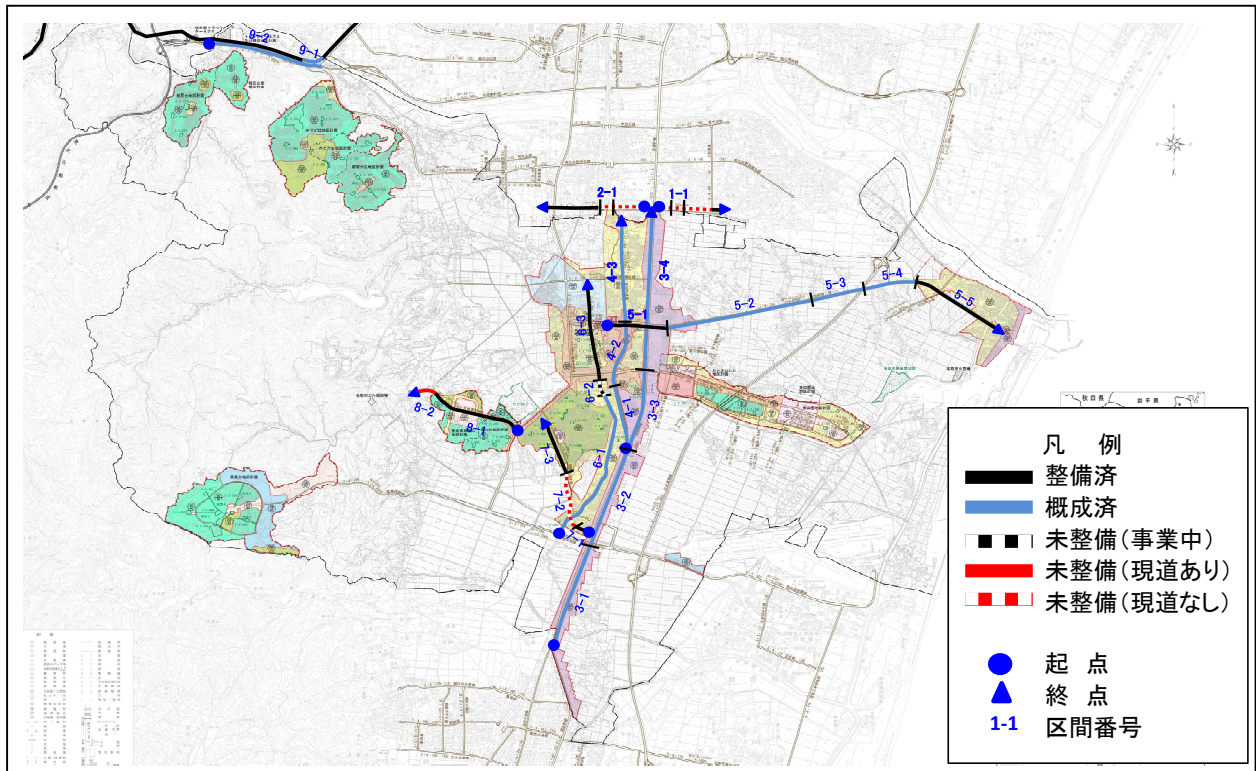
都市計画道路のうち、都市計画決定から20年以上経過する長期未着手路線の8路線（概成済み・事業中・事業予定がある区間及び高速道路を除く）及び問題区間の1路線を、本調査では「見直し検討対象路線」と位置付けた。

□見直し検討対象路線

□都市計画道路の整備状況



資料：都市計画道路現況調査（平成29年度）



また、見直し検討対象路線の現状を把握するため、宮城県の「都市計画道路見直しガイドライン（改訂版）」（平成30年3月）を踏まえ、都市計画決定状況、バス路線等の位置付け、支障物件の状況、事業化にあたっての問題点等を「路線評価カルテ」として整理した。

その結果、未整備区間の多くは既成市街地に位置し、沿線には多くの住宅や商業施設等が立地している状況にあり、用地の確保に長期間を要すること、整備費が高額になることがわかった。この結果を踏まえ、未整備の都市計画道路の計画的な整備、または見直し案の検討を適切に行うことを課題とする。

③ 将来交通需要予測への対応

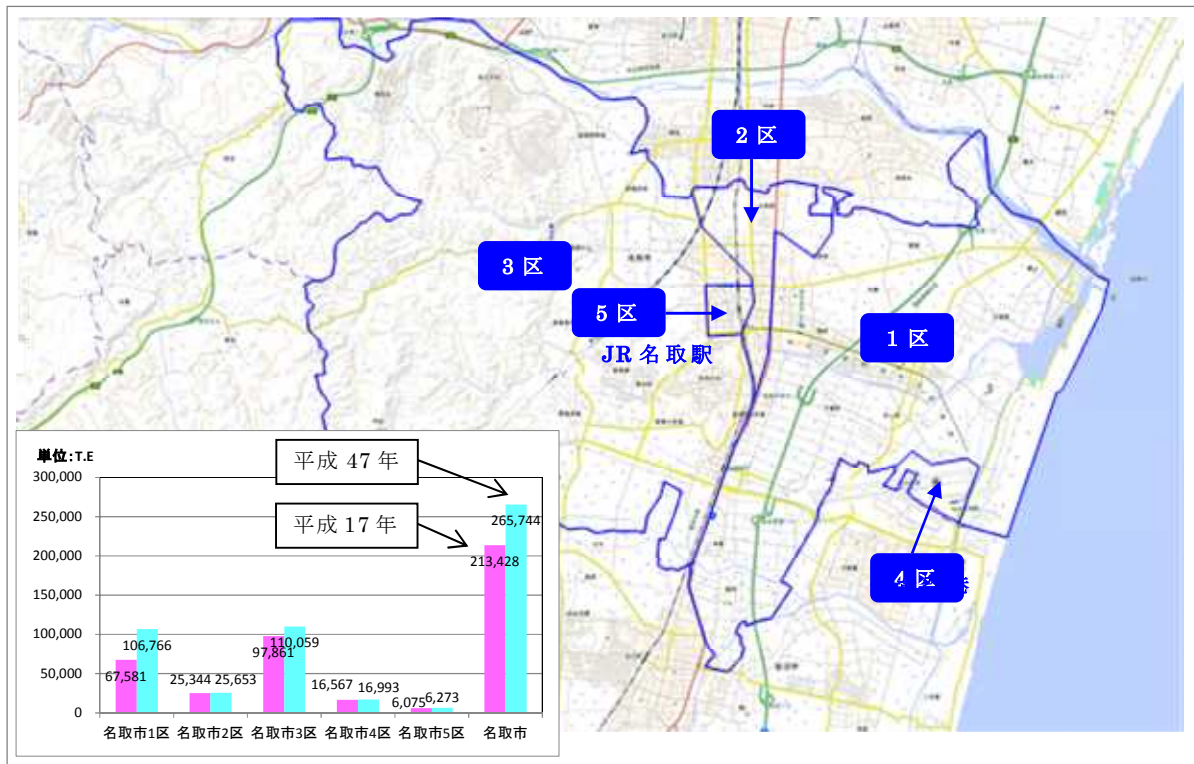
本市の将来交通需要に対応した道路体系を検討するため、2030年全国将来車種別BゾーンOD表(第14次フレーム)及び第4回仙台都市圏パーソントリップ調査(調査時点で公表されている最新の調査)を用いて把握する。

本市の発生集中交通量は、平成17年から平成42年にかけて増加するものと予測されており、その内訳をみると名取市東部(1区)と名取市西部(3区)と、中心部の東西で進められた市街地開発に伴うものと考えられる。

また、第4回仙台都市圏パーソントリップ調査による将来交通量配分結果より、個別路線の将来交通量配分結果(H37年)をみると、(都)仙台東幹線(仙台東部道路)、(主)塩釜亘理線、(一)仙台館腰線等の交通量が増加している。一方、国道4号の交通量は42~47千台/日と現状並みの交通を処理していることから、南北方向の交通需要はさらに増加することが予測されている。さらに、(都)熊野堂柳生線は25~35千台/日の交通量が見込まれるほか、(主)仙台空港線も30千台/日を超える交通量となっており、東西方向の交通需要も多くなることが予測されていることから、増加する交通需要に対応した道路機能の方向性の検討が課題となっている。

なお、平成29年度より本市を含む仙台都市圏の18市町村を対象に第5回仙台都市圏パーソントリップ調査が実施されており、当該調査と連携を図りながら、将来交通需要に対応した幹線道路網の位置付けを検討する必要がある。

□ 発生集中交通量の見通し



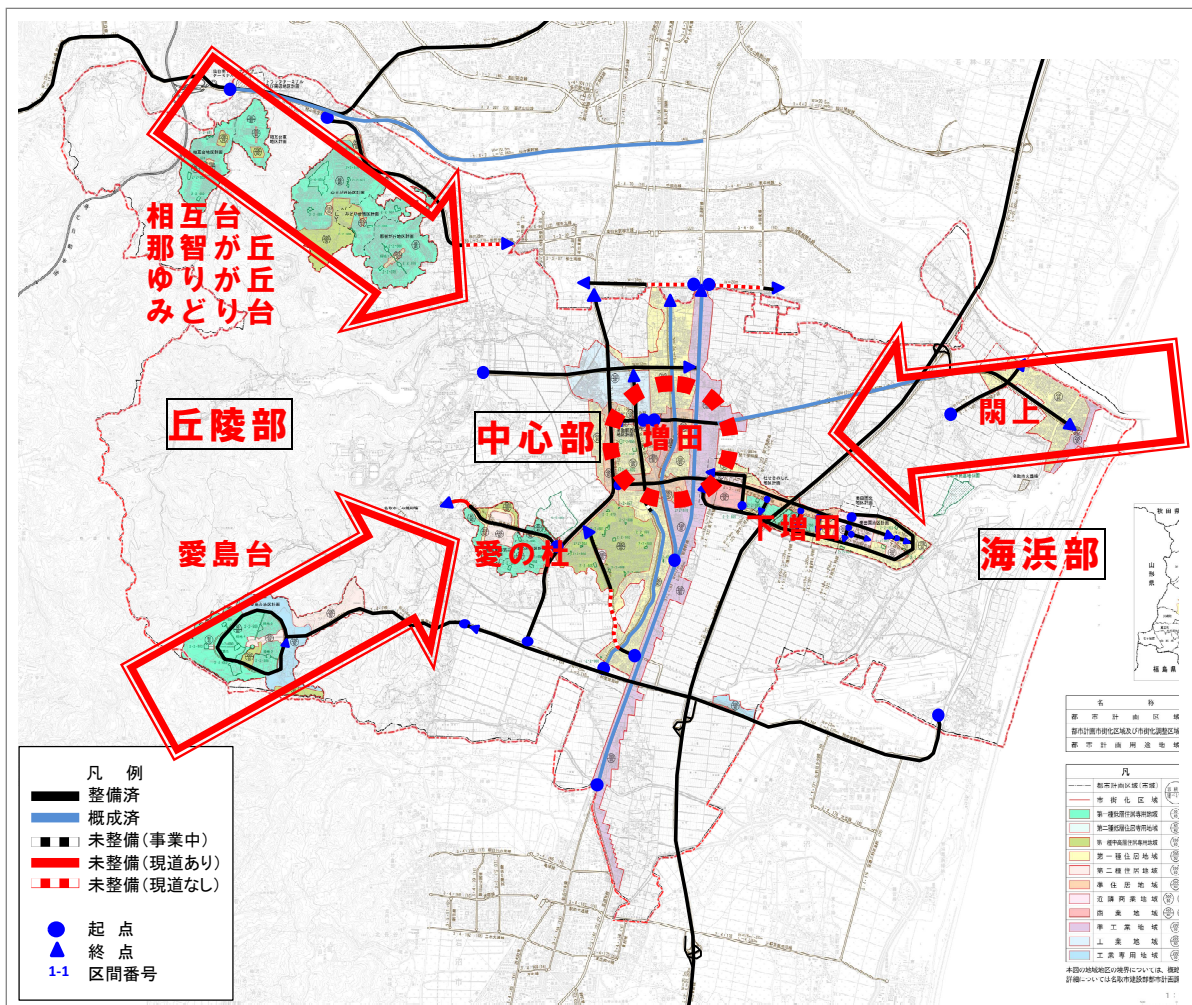
資料：2030年全国将来車種別BゾーンOD表

④市中心部と郊外部のネットワークの強化

名取市第5次長期総合計画（平成23～32年度）「4章2節 交通体系の構築」において、広域交通の充実に比較した地区間ネットワークの脆弱性について言及しており、この改善を課題として定めている。これに基づき、都市計画道路見直し検討においても市内のネットワークの円滑化に資するため、これを課題として位置付けることとする。

具体的には、本市の住宅地は主に、平野部地域に位置する中心部（増田周辺、下増田周辺、愛の杜周辺を含む）、郊外部として海浜部地域に閑上地区、丘陵部地域に相互台、那智が丘、ゆりが丘、みどり台が分布しているが、これら各地区と市中心部をアクセスする機能の向上を、都市計画道路網の検討のための課題とする。

□市街地の分布状況と都市計画道路の整備状況



資料：名取市都市計画課（平成30年3月現在）